

# ヤマトクロコメツキの形態について

有本久之<sup>1)</sup>・有本晃一<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西 3-4-21

<sup>2)</sup> 〒 569-1125 大阪府高槻市紫町 1-1 JT 生命誌研究館

## Notes on Morphological Structure of *Ampedus (Ampedus) yamato* (Elateridae, Elaterinae, Ampedini) from Japan

Hisayuki ARIMOTO and Kôichi ARIMOTO

Abstract: *Ampedus (Ampedus) yamato* Kishii, 1998 was described based on two male and four female specimens from Nara Park in Nara Prefecture and Akiho Spa in Miyagi Prefecture. Subsequently, this species was recorded from Yamanashi, Kyoto and Wakayama Prefectures (Mizuno & Kishii, 2014). However, the identity of this species is not clear because of indistinct morphological information. We examined some specimens of this species including the type series. In this paper, we redescribe its morphological structures with photographs and drawings based on the types and the other specimens.

### はじめに

ヤマトクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) yamato* Kishii, 1988 は奈良県奈良公園と宮城県秋保温泉で得られた2雄4雌個体に基づいて記載された種である。その後、本種は水野・岸井(2014)により山梨県御座石鉱泉、京都府舞鶴市養老山、奈良県春日山、奈良県桜井市長谷寺、和歌山県高野山から記録されたが、総じて記録の少ない種であることや種同定に必要な形態情報が不鮮明であることにより、実態が不明のままであった。筆者らは本種のタイプシリーズを含む複数の標本を調査し、本種の同定に必要な情報を得ることができた。本稿ではヤマトクロコメツキの形態概要を報告し、近縁種との形態的な違いについて解説を付した。

### 検視標本

ホロタイプ (Fig. 1A–C, F): 1♂, 奈良県奈良市奈良公園, 9. II. 1986, 高橋徹採集。パラタイプ: 1♀, 同所, 6. II. 1986, 高橋徹採集 (Fig. 1G, H); 1♀, 同所, 1. IV. 1984, 高橋徹採集; 1♀, 同所, 9. II. 1986, 高橋徹採集; 1♂, 同所, 13. IV. 1986, 高橋徹採集。

その他の検視標本: 1♂, 長野県松本市穴沢, 3. V. 2012, 長谷川道明採集; 1♀, 長野県大滝村, 24. VI. 1979, 河路掛吾採集; 1♀, 奈良県奈良市春日山, 15. V. 2004, 有本久之採集; 1♀, 奈良県奈良市若草山, 21. V. 2004, 有本久之採集; 1♂, 兵庫県宍粟市赤西溪谷, 10. V. 1987, 小田中健採集 (Fig. 1D, E); 1♀, 大分県由布市黒岳 (男池), 28. III. 2009, 森正人採集。

検したタイプ標本は全て大阪市立自然史博物館に保管されており、他の標本は筆者が保管している。

### 形態概要

雄。体長 11.3–11.9 mm, 幅 3.0–3.1 mm。体は黒色で背面は光沢を有し、前胸背板は強いオパール色の光彩を有する (Fig. 1A)。触角は概して基部3節は黒褐色、第4節から第11節までは黒色であるが、全節が黒褐色から赤褐色をしている個体もあり、変異が見られる。小顎鬚は黒色、脚は赤褐色を呈す。背面には黒色の針状毛を生じ、頭部は直立したやや長い毛、前胸背板はやや倒伏した毛、上翅は倒伏した毛を生じる。腹面は黄褐色の針状毛で覆われる。体表面は平滑であるが、上翅間室には浅い不規則な横皺を生じる。

頭部は複眼間ではやや膨隆するが、前頭中央部は弱く抑圧される。頭部点刻は円形でやや密、前方へいくに従い大きく密になり、点刻間の距離は点刻の直径より明らかに小さい。前頭横隆線は弧状で弱く縁取られる。触角 (Fig. 1D) は短く、末端は前胸背板後角の先端に届かない。触角第2節は短小で長さや幅がほぼ同長、3節は倒円錐状で2節の約1.5倍の長さ、4節は3節の約1.8倍の長さ、4節から10節までは鋸歯状を呈する。小顎鬚 (Fig. 1E) の先端節は鉈状。

前胸背板は幅より僅かに短く、側縁は基部1/3では平行状で、そこから前角へ向かって湾曲して漸次細くなる。前胸背板の点刻は円形で一様であり、点刻間の距離は点刻の直径より大きく、頭部点刻より僅かに小さく疎である。前胸後角は後方に伸長し先端は鈍くとがり、背面に1本の隆起線を有する。前胸腹板突起は前肢基節腔の直後から明瞭に内方に湾曲し、末端部の外縁は直角状に段刻される。

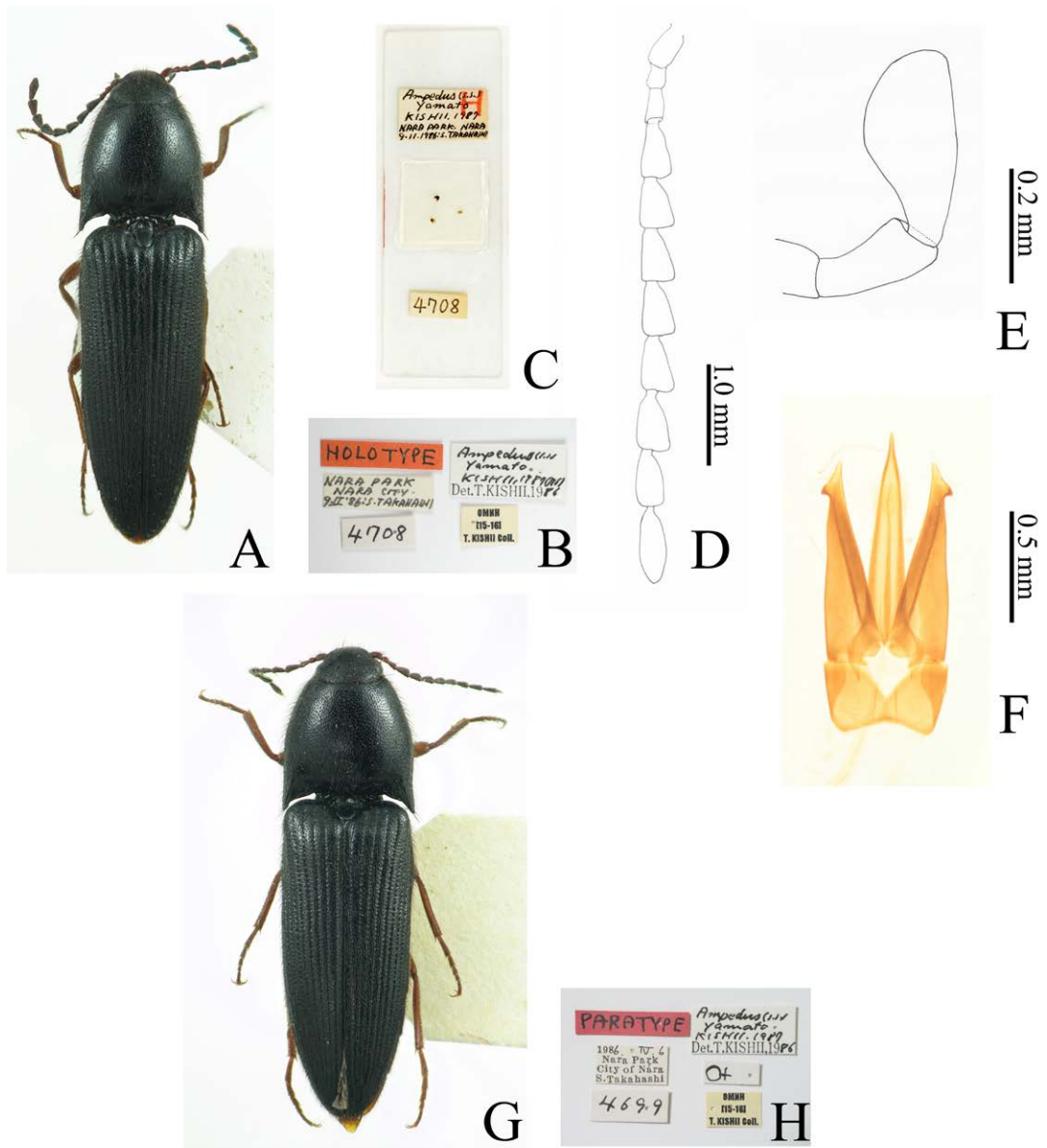


Fig. 1. *Ampedus (Ampedus) yamato* Kishii, 1998. A–C, F: Holotype male; D, E: male, from Akasai valley in Hyōgo Prefecture; G, H: paratype female. — A, G: Habitus; B, H: labels; C: prepared slide of aedeagus and genital segments; D: right antenna, dorsal view; E: right maxillary palpus, dorsal view; F: aedeagus, dorsal view.

上翅は肩幅の約2.5倍の長さ、基部2/3は平行状で、そこから先端へ向かって湾曲し漸次細くなる。条線は深い点刻列を印し、間室部はわずかに膨隆する。

挿入器 (Fig. 1F) の中央片は側片より長く、基部から先端に向かって漸次細まり、先端は尖る。側片の先端部は長三角形状で、外縁は内側へわずかに湾曲し、外角は外方に突出して10個内外の微細な段刻を生じる。

雌 (Fig. 1G). 体長11.0–12.5 mm, 幅3.2–3.5 mm.

一般外形は雄によく似るが、雄に比して触角は明らかに短く、末端が前胸後角に届かず、第4節から10節までの鋸歯状の程度が弱い。

#### 近縁種との識別点

ヤマトクロコメツキ (以下ヤマト) はアカハラクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) に似るが、後者はやや大型で体はより太く、腹板は黄褐色～赤褐色を

呈する（ヤマトは完全に黒色）ことで容易に識別できる。ヤマトはクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) ivanovi* (Jakobson, 1913) にも似るが、クロコメツキの毛は一樣に褐色で、前胸背板にはオパール色の光彩を欠く（ヤマトの背面の毛は黒色で、前胸背板にはオパール色の光彩を有す）ことによって容易に識別できる。また、上記3種は雄挿入器の形状が明確に異なる。

ヤマトの顕著な特徴として「前胸背板表面のオパール色光彩」があげられるが、原記載 (Kishii, 1988) ではこの特徴が記述されておらず、長らく記載者以外には本種を認識できない原因になっていたと思われる。本報告により、本種は日本産最大の属であるコメツキムシ属 *Ampedus* の中でも比較的容易に同定が可能な種であることが判明した。

### 分布

本州（和歌山県；奈良県；兵庫県；京都府；長野県；山梨県；宮城県）、九州（大分県）。兵庫県、長野県、九州からは初めて記録される。

本種のこれまでの分布記録は少ないが、本州、四国、九州に広く分布していると予想される。また、アカハラクロコメツキの分布記録の中には、腹板

の色彩変異個体として誤同定されたものがある可能性も有るので、本種の正確な分布を理解するためにも、同好諸氏には再確認をお願いしたい。

### 謝辞

本文を草するに当たり、タイプ標本の借用をはじめ種々お世話頂いた大阪市立自然史博物館の初宿成彦氏に厚くお礼申し上げる。また、貴重な標本の支援を頂いた豊橋市自然史博物館の長谷川道明氏、西宮市の森正人氏、宝塚市の小田中健氏に心からお礼申し上げる。

### 引用文献

- Kishii, T., 1988. A study of *Ampedus (Ampedus) ivanovi* (Jakobson, 1913) and its allied species from Japan, with descriptions of some new taxa (Some new forms of Elateridae in Japan, XXI). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, Japan, (32): 11–22, pls. I–IV.
- Kishii, T., 1999. A check list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, Japan, (24): 1–144.
- 水野弘造・岸井 尚, 2014. 初宿成彦編, 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3) コメツキムシ科(1). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 46: 113–198.

(2017年7月6日受領, 2017年8月22日受理)

### 【短報】石垣島中央部森林地帯で2月下旬に採集されたイリオモテボタル

イリオモテボタル *Rhagophthalmus ohbai* Wittmer, 1994 (Wittmer & Ohba, 1994) は、石垣島、西表島および小浜島から知られている。12月中旬から1月中旬に出現し、その生息環境は人家の石垣や草地で、幼虫はヤスデを捕食しているという (大場, 1996)。

筆者らは、2007年2月19日夜8時に石垣島中央部のオモト岳の麓、嵩田林道の最高点 (約150m) の林道脇にマレーズトラップを設置した。設置場所は片側が森林、反対側が少し伐採され、ひこばえの多い斜面となっており、この斜面側である。設置時は雨が強く降っており、3日後の2月22日午前中に



図1. イリオモテボタル♂, 体長9.5mm (左: 背面, 右: 側面)

このトラップを回収したところ、イリオモテボタル1頭 (雄) が捕獲されていた。

♂, 沖縄県石垣市嵩田林道, 22. II. 2007, 筆者ら採集。

今回得られた場所は石垣島中央部の森林地帯であり、生息環境は、これまで言われてきた人家の石垣や草地だけでなく、実際はもっと広く生息しており、今回は2月下旬に採集されたことから、出現時期も場所によっては幅があるものと思われる。

なお、調査にあたり、マレーズトラップ設置許可をいただいた、当時の沖縄県林業試験場の具志堅允一場長に謝意を表す。また、イリオモテボタルの同定にあたり、確認の労をとっていただいた愛媛大学の吉富博之博士に、厚くお礼を申し上げます。

### 引用文献

- 大場信義, 1996. ヤスデを捕食するイリオモテボタルの幼虫. 全国ホタル研究会誌, 29: 21–22.
- Wittmer, W. & N. Ohba, 1994. Neue Rhagophthalmidae (Coleoptera) aus China und benachbarten Landern. Japanese Journal of Entomology, 62(2): 341–355.

(横原 寛 いすみ市日在 2033-5)

(加賀谷悦子 森林総合研究所森林生物部  
昆虫生態研究室)